

「ユニバーサルデザインのまちづくり」に関するアンケート報告

だれもが自由に移動し社会参加できる、「ユニバーサルデザインのまちづくり」の参考とするために、「ユニバーサルデザインのまちづくり」についてのアンケートを実施しました。

（なお、「ユニバーサルデザイン」とは、「すべての人のためのデザイン」を意味し、お年寄り、身体の不自由な人、妊娠している人、乳幼児連れの人、子ども、外国人など、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用できるように施設や商品や制度を設計（デザイン）することをいいます。）

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおりご報告申し上げます。

1 アンケート実施期間

平成20年12月1日（月）から12月26日（金）まで

2 意見募集の結果

- (1) 対象者数 1,142名
- (2) 回答者数 776名
- (3) 回答率 68%

3 属性

- (1) 性別 男性：54%、女性46%。

- (2) 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
79名	176名	204名	173名	115名	29名
10%	23%	26%	22%	15%	4%

- (3) 地域別

北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
347名	202名	124名	71名	32名
45%	26%	16%	9%	4%

4 アンケート結果

Q1 「ユニバーサルデザイン」の意味

『ユニバーサルデザイン』という言葉の意味をご存じでしたか」の問いに対しては、「よく知っていた」128名（16%）、「知っていた」289名（37%）、両者合わせて417名（54%）でした。

「よく知っていた」「知っていた」と回答した方の率を年齢構成別にみると、20代65%、30代56%、40代59%、50代49%、60代44%、70代以上が38%となっています。

Q2 ユニバーサルデザインのまちづくりへの関心

すべての人々の社会参加の機会を確保し、自由に行動し、安全で快適に生活できる「ユニバーサルデザインのまちづくり」についての関心については、「非常に関心がある」が107名（14%）、「ある程度関心がある」が527名（68%）、合わせて634名（82%）の方が関心があると回答しています。

「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と回答した方の率を年齢構成別に見ると、20代84%、30代84%、40代81%、50代80%、60代83%、70代以上が72%となっています。

Q3 公共交通のユニバーサルデザインについて（1）

「歩道や駅、バスなど公共の交通施設は、だれでも自由に移動できるようになってきていると感じますか。」との問いに対し、「そう感じる」が27名（3%）、「どちらかといえばそう感じる」が304名（39%）、あわせて331名（43%）の方が肯定的でした。

「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」と回答した方の率を年齢構成別に見ると、20代33%、30代48%、40代37%、50代40%、60代53%、70代以上が45%となっています。

Q4 公共交通のユニバーサルデザインについて（2）

Q3について、どうしてそのように感じるか、その理由をお聞きしました。その一部を抜粋いたします。

- 目や耳や体が不自由な方々への配慮が目につく。
- 点字歩道やスロープなど増えてきたと感じている
- 車イス対応のバスをよく見るようになったのと、電車の際に駅員がタラップを用意する対応を見かけるようになった。
- ベビーカーを押していると、段差が多いのに気づきました。ただ歩いているだけでは、気づかなかったけど、お年寄りや身体の不自由な人などには、とても歩きにくいと思います。ベビーカーも、持ち上げないと移動できないところが多いです。
- 段差が急な歩道や、点字ブロック上への自転車やバイクの駐車など、体が不自由な人や車椅子の移動ができないところが多すぎる。田舎の道では歩道であるにもかかわらず車椅子の通るスペースがないところもあり。
- 特に地方は、階段等の段差が多すぎる。

Q5 施設のユニバーサルデザインについて（1）

「公民館・病院・スーパーなど多くの人々が利用する建物は、だれもが使いやすくなってきていると感じますか。」の問いに対して、「そう感じる」が59名（8%）、「どちらかといえばそう感じる」が461名（59%）、あわせて520名（67%）の方が肯定的でした。

「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」と回答した方の率を年齢構成別に見ると、20代56%、30代68%、40代71%、50代68%、60代70%、

70代以上が52%となっています。

Q6 施設のユニバーサルデザインについて（2）

Q5について、どうしてそのように感じるか、その理由をお聞きしました。その一部を抜粋いたします。

- エレベーターの完備や障害者用のトイレ、通路を広くしていたり以前よりよくなっている。
- 比較的新しい施設には、車いす使用者等用のトイレが設置されてきている。
- 間口が広くなり、また手摺が増え、スロープの設置なども見かけるようになった。
- スーパーでは車椅子での買い物は無理だと常々思っている。公民館は、選挙の時だけ！！！！普段もいろいろ配慮をして欲しい。
- 老人や外国人に対して不案内。
- 視覚障害者のための誘導チャイムが入口で鳴っている公共施設がまずない。病院の待合で聴覚障害者は自分が呼ばれるかどうかドキドキしながら待たなければならない病院が多い。ユニバーサルデザイン含まれるかどうか知らないが、待合でバイブで通知する装置を渡してくれるところがもっとほしい。公民館などでは「介助が必要な場合は押しボタンで」などがあるが、その押しボタンまで行くことができにくい場合が多い。特に車いす駐車場にパイロンが置いてあり、ボタンで呼べと言われても、一人で運転してきた車いす利用者には全く意味がない。

Q7 情報提供に関するユニバーサルデザイン

「公共機関が発行する案内文やチラシなどで、困ったことや不便に感じたことはあるか、項目を複数選択可で選ぶ問いでは、次の結果でした。

なお、「現状で満足している」の回答は、283名（37%）でした。

項目	回答数	総回答数に占める割合
欲しい情報がなかなかみつからない	243	31%
専門用語やカタカナの外国語など難しい言葉があつて意味がわからない	236	30%
文字が小さくて読みづらい	147	19%
色やデザインが見づらく、わかりにくい	78	10%
音声や点字などによる広報や資料がほしい	31	4%
その他	34	4%

Q8 情報提供に関するユニバーサルデザインについて（2）

Q7で、「その他」と回答された方の意見は、「文字が多すぎる」「文章表現がわかりにくい」「興味をそそるレイアウトが少ない（地味）」「地図がわかりにくい。」等でした。

Q 9 「車いす使用者用駐車区画」について

「『車いす使用者用駐車区画の利用対象者』をご存じでしたか」の問いに対しては、「よく知っていた」が276名(36%)、「だいたい知っていた」が350名(45%)、両者合わせて626名(81%)でした。

「よく知っていた」「だいたい知っていた」と回答した方の率を年齢構成別にみると、20代67%、30代84%、40代81%、50代78%、60代90%、70代以上が79%となっています。

Q 10 「思いやり駐車区画」について(1)

車のドアを全開にする必要はないものの、障がい者、高齢者、妊娠している人、乳幼児連れの人など、建物の入口近くに駐車が必要な方がみえます。

三重県では、このような方を対象に、「思いやり駐車区画」を県や市町の施設に設置する取組を進めています。

(左の写真は、三重県庁の駐車場にある「思いやり駐車区画」)



「この『思いやり駐車区画』について、県や市町以外の施設にも広げた方がよいと思いますか。」の問いに対して、「はい」の回答者は530名(68%)、「いいえ」の回答は、54名(7%)、「わからない」が192名(25%)でした。

Q 11 「思いやり駐車区画」について(2)

Q10で、「はい」と回答された方に、どのような施設に設置すれば良いと思われるかお聞きしたところ、「スーパーやショッピングセンター等」「病院等」の順に多い状況でした。次いで「官公庁」「駅」「文化施設」「金融機関」等でした。

Q 12 「思いやり駐車区画」について(3)

Q10で、「いいえ」と回答された方に、その理由をお聞きしたところ、49名の回答者のうち、約半数の24名の方が、「車いす使用者用駐車区画でも不必要な人が駐車している」「マナーが守られないと、必要とする人が本当に止められるか疑わしい」等を理由にあげています。

Q 13 「思いやり駐車区画」の名称について(1)

「『思いやり駐車区画』の名称について、どう思いますか。」の問いに対して、「適切だと思う」が457名(59%)、「適切だとは思わない」が101名(13%)でした。また、「特に何も思わない」方が218名(28%)でした。

Q 14 「思いやり駐車区画」の名称について(2)

Q13で、「適切だとは思わない」と回答された方に、その理由や、どのような名称が適切かお聞きしたところ、「思いやり」の表現について「おしつけがましい」「恩

着せがましい」等（34名）の意見が最も多く、次いで「対象者がわかりにくい」等（18名）となっていました。

また、他の適切な名称については、「優先」の言葉を使用した回答が複数の方（4名）からありました。

Q15 行政に期待すること

ユニバーサルデザインを推進していく上で、行政に期待することをお聞きしました。いただいたご意見の一部抜粋します。

（ユニバーサルデザインの推進に関して）

- ユニバーサルデザインを採用した企業などを広報で特集したり、実際に施設を使った体験談を掲載してほしい。
- 行政主導ではなく、民間にも協力をもとめ、積極的に推進していくべきだと思います。
- もちろん行政もですが、人として思いやりの気持ちがあれば、譲り合ったり・助け合ったりとあえて特別強調しなくてもいいことなのに・・・
- ボランティアや市民が関わることのできる「参加型の福祉環境」が提供されていくと理想的。
- 市民や県民の声を聞き、本当に必要とされていることは何かを見極めた上で、ユニバーサルデザインを推進していただきたいと思います。
- モデル市、または町を作りその町、市に行けばすべてのユニバーサルデザインが体験できモデルでの問題点、改善点を洗い出し、よりよい町づくりを推進して欲しい。

（施設整備に関して）

- 歩道の整備。子供や高齢者が安全に移動できるようにして欲しい。
- 障害者の立場で利用しやすい基準で設計施工して欲しい。
- 特に障害者に配慮した街作りをする前に普通の人が暮らしやすい街作りをしてほしい。自転車が安全に走れない街などヨーロッパへ行けばありませんよ。
- 公共施設よりも民間の施設の方が進んでいます。またその説明もわかりやすく大きく表示してあります。リサーチして参考にして下さい。
- 都会はともかく経済的に厳しい地方では、公共エリアの改善などほとんど不可能なのではないでしょうか。
- 費用のかかる設備の改善よりも、小さな工夫の積み重ねが必要不可欠な気がします。
- 公共交通網をもう少し便数をふやして使いやすくしてもらいたい。
- 目立った新しい施設だけでなく、既存の施設の不備を確認して、整備してほしい。
- 段差などを無くし、各行政部門が協力しての街づくりを推進して欲しい。

（車いす利用者用駐車区画等について）

- 先の質問の続きのようになってしまいが、どこをどう見ても健常者の人が車椅子駐車区画に駐車するのが許せない。どうにかして！

- 健常者が、車椅子利用者の為の設備や施設を使用した時に罰則が必要だと思えます。ひどい人は、わざわざ車椅子の表示まで付けています。
- 車椅子利用者用区域や思いやり駐車区画など積極的に迅速に拡大してほしい。ただ、本当に必要な方々が駐車できるような対策を同時にとってほしい。現在、さまざまな施設で上記の区画が設けられているものの、まったくの健常者がその区域に何食わぬ顔をして駐車しているのを頻繁に目にします。事実、身内に障害者がいて、必要なのに利用できないことがあります。対象者ではない人々がそのような区域を使用できないよう対策をとってください。
- 推進といった意味では、施設の適度な整備をお願いするのみです。一方で、県民のモラル改善の啓発が重要と思えます。特に地方では車いす利用者用駐車区画に平気で車を止める者が多く、私の行くスーパーなどでは止まっていない事の方が格段に少なく閉口します。こういった者に対する罰則は設けられないのかと常々思えます。
- 実際に、身体の不自由な人や高齢者の人に使ってもらったり、意見をよく聞いて、設置したりして行って欲しいと思えます。
- 「車いす利用者用駐車区画」や「思いやり駐車区画」の対象者ではない人が、利用しているケースがあるので、啓蒙活動を積極的に行うべきと思えます。
- 車いす利用者用駐車区画に健常者が普通に駐車している。それをさせないために、コーンを置いている駐車場を見かけますが、本末転倒だと思えます。絶え間ない周知徹底が必要だと思えます。
- 結局は使用する人のマナーだと思うので、教育から見直して行くべきだと思う。
- 利用者目線に立ち、設置場所、利用方法などを考える必要があると思う。

まとめ

お忙しい中、ご回答をいただきましたモニターの皆様には、あらためて心よりお礼を申し上げます。

いただいた自由意見のなかで、「実際に、身体の不自由な人や高齢者の人に使ってもらったり、意見をよく聞いていただきたい」等の趣旨のご意見を多くいただいており、今後とも、県民の方のご意見をお聞きし、取組を進めて参ります。

また、「車いす利用者用駐車区画」等におけるマナーに関するご意見も、今回多数いただきました。参考とし、誰もが暮らしやすい、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組んで参ります。

ありがとうございました。